

原木需給情報システム開発事業関連海外情報

No.13, 9 August 2013



沿海地方とロシア連邦の木材産業複合体の現状

ロシアは、世界の森林資源の 23%を占める最大の森林資源国であり、この森林資源の 78%は、この国のアジア部分に位置している。極東という言葉は、豊かな森林地帯を表しており、森林の面積はこの国の中で第 1 位、森林資源という点では、東シベリアに続いて第 2 位である。極東連邦管区は、ロシアで最大の森林地帯であり、ロシアの森林資源の 45%を占める。

2012 年 1 月 1 日時点で、極東連邦管区の植林面積は累計で 2 億 2,300 万 ha にのぼり、総面積の 44.9%を占める。同管区では、針葉樹林が森林面積の 86.2%をなしている。

沿海地方は、同管区の 9 の地域の一つであり、総計 200 億 m^3 以上の森林資源があり、そのうち 119 億 m^3 は、成熟林ないし過熟林である。森林の資源量では、1 位のサハ共和国（同管区の立木資源量の 43.4%を占める）、2 位のハバロフスク地方（同 25.0%）、3 位のアムール州（同 9.9%）に次ぐ第 4 位で、同 9.3%を占める。なお、カムチャツカ（同 5.9%）、サハリン州（同 3.1%）、マガダン州（同 2.1%）、ユダヤ自治州（同 0.9%）、チュコト自治管区（同 0.4%）は、それぞれ第 5 位～第 9 位である。

同管区の成熟林ないし過熟林の成長量は、平均して、針葉樹林では 110 m^3/ha 、広葉樹林では 103 m^3/ha 、針広混交林では 135 m^3/ha になっている。ロシア国内の中で、沿海地方の針葉樹林の成長量は高いと知られ、198 m^3/ha に達している。

沿海地方では、120 年間以上集中的に森林が伐採されてきたが、その資源量はまだ巨大である。同地方の林地は約 1,140 万 ha で、森林被覆率は 68.6%で日本

と同レベルである。森林損害がなければ、同地方の針葉樹林帯では、毎年 1,060 万 m³ の収穫が可能であろう。

ロシアの林業複合体は、毎年の国内総生産（GDP）の 1.2%、毎年の工業生産の 4%、輸出から得られる毎年の外国為替収入の 4%以上に貢献している。地方林業複合体は、ロシアの 45 の分野において毎年の全工業生産の 10~50%を貢献している。しかしながら、国内の森林資源の使用は、まだ非効率的なままである。ロシアの産業的な木材生産の世界におけるシェアはわずか 8.1%であるのに、先進国では、それははるかに高い。例えば、米国では資源量シェアが 7.9%であるのに対し金額シェアは 25.2%、そしてカナダでは資源量シェアが 7.6%であるのに対し金額シェアは 12%である。

木材加工工業は、今のところ、世界市場における競争力は、まだ十分ではない。金額のシェアは、木材加工品が世界の毎年の輸出数量に占めるシェアよりもはるかに少ない。その金額のシェアの占有量は、言及された生産物の世界の毎年の輸出量中に物理的に占める量的なシェアの占有量よりはるかに低い。ロシアの木材輸出の基本は、加工されていない素材になっており、木材加工の精度やその効率的な使用という点で、著しく先進国に遅れをとっている。

極東は、アジア-太平洋圏 (APR) へのロシアの木工製品輸出の先頭に立つ地域である。太平洋に近接していることは、事実上、APR の国々へ林産品を無制限の販売できる市場への入り口が用意されていることになる。これらの国々は、地球の面積の 30%以上を占め、世界の総人口の 40%を数え、世界の国内総生産の 60%、世界の輸出の 50%を占めている。ロシア極東からの輸出の大部分は丸太で、製材品の輸出シェアはたいしたことなく、ロシアの総輸出の約 10%である。

沿海地方の林業複合体もまた、未加工の木材の輸出に焦点を当てている。この状況は、国内政策によって引き起こされた。それは、1990 年代にこの産業で原料の生産の開発を促進するもので、この分野では、それまでの大企業が破産し、企業がより小規模化（退化）していくのに拍車をかけた。21 世紀の始めまでに、生産能力や所有形態の異なる、1 年当たり 4 億~4 億 5 千万 m³ の生産能力を持つ、約 40 の木材加工プラントが残った。生産能力のうち約 8 万 m³ 分は、主として伐採に従事している小規模の生産者が所有していた。小規模な森林を借りて年間 100~500 万 m³ の木材を生産している小規模なユーザーは、安い製品を備えた海外市場に殺到した。その期間、沿海地方においてのみ、約 500 人の材木輸出業者が見られた。これらの仕事は、コントロールすることがほとんどで

きないので、無許可の森林伐採や木材窃盗がだんだん一般的になってきている。非合理的な政策や、輸出作業の調整センターが一軒もないことが、そうした企業がそれぞれ単独で外国のパートナーと結びつくことを可能にし、そのことが輸出林産品の価格のダンピングに結びついている。これらのことは、他の理由によっても引き起こされた。その最も重要なものは輸出製品の卸売価格や国内消費用の製品が企業によってあらかじめ輸出志向で決められており、国内マーケットが完全に欠如している、ということとの相関性ばかりではなく、鉄道輸送にかかる税費の増加や、アジア-太平洋市場向けの不凍港および接近を独り占めされていること、である。エネルギー価格の高騰は、木材の乾燥、さらに加工に大きな影響を与え、生産停止まで追われた。その主な理由は、極東の企業がシベリアの工場と競争することができなかったことで、シベリアの工場には、水力発電所による安価な電力があった。同じ理由で、ダリネレチェンスク（Dalnerechensk）では、繊維板やウッド・チップ・ボードを生産していた会社が倒産し、また、レソザボドスク（Lesozavodsk）では、薄層ボードを生産していた「ランメベル（Lammebel）」社が倒産した。同じ時期に沿海地方では、新しい会社がさらに作られ、こうした会社は、概して外国のパートナーの参加を得、現代的な設備を備えていて、完成した輸出用製材の販売を確保した。例えば、これらの会社は、針葉樹単板積層材や広葉樹から作られた家具用積層パネルの製造に特化されていた。

ロシアの経済発展省は、絶えず輸出丸太への関税を高くしようとしている。沿海地方の木材産業複合企業は、消費市場に遭遇する機会がほとんどない。新しい景気情勢の中で、供給に関してこの国の西部地方へ焦点をあててみたところ、それは有効なのではなく、損であることが判明し、また、ロシアの製品の質がまだ低いので、海外の市場において、他の国々からの競争相手と高度加工製品の消費者を巡って極めて激しい闘争を余儀なくされるであろうことも判明した。

ここ数年の間に、沿海地方の木材加工は、以下のように進化した。1985年には149万5,000 m³、1990年には104万4,000 m³、1995年には10万6,000 m³、製材品を除き、少量の他の木製品（産業用チップ、まくら木、スライズドベニヤ、床張り材料、工場製品、積層ボード、家具、その他）もまた生産された。しかし、これらの製品の合法的な生産者の財産状態は、貧弱なままだった。地域の木材産業複合体の納税義務のある会社のシェアは、14%まで落ちた。

海外への丸太の供給を止めて、木材の高度加工を始めるためには、沿海地方

の木材業者の努力を結集し、大きな有益なプラントを建造することが必要である。この問題の解決策は、国家の参加なしでは不可能である。沿海地方の全森林を管理している領域行政にとって森林伐採を統合することが必要で、そうすれば大規模な生産資源を統合することが可能になるだろう。

未加工の丸太に課される高額の関税の導入は、会社を高度木材加工に向かわせにしようとしている。新しい木材加工施設の導入を図る主な事業を検討するため、例を Primorsklesprom 協会にとってみることにする。ロシア連邦の森林法および 2007 年 6 月 30 日から施行された政令 No. 419「森林開発分野でプライオリティの高い投資計画について」によれば、同協会は、ソベトレヤ (Svetlaya) 村、テルネルスキー (Terneysky) エリア、そしてオルガ村、オルジンスキー (Olginsky) エリアに製材工場を、およびチュグエフカ (Chuguevka) 村、チュグエフスキー (Chuguevsky) エリアに単板積層材プラント工場を構築することを計画している。

投資計画は、3つの方向に展開されており、丸太伐採、製材、および単板積層材生産への投資を用意している。プロジェクト実現までの期間は 2008～2013 年だが、全能力を上げれば 2012 年に成し遂げられよう。プロジェクトの全費用は、約 3 億 1000 万ルーブルである。プロジェクトによる生産能力は、普通に計算すれば、年間原木 13 万 m³、単板積層材 5,000 万 m³ である。原木の需要は、「ソベトレヤ・ブランチ」の自己調達のもの 30 万 m³ を含む年間 3 億 6,000 万 m³ になるであろう。製品は、アジア-太平洋地域および域内市場へ輸出に向けられるだろう。事業資金は、自己資金や、ロシアおよび外国銀行からの借入金によって賄われるだろう。このプロジェクトが実現すれば、現在ある 600 以上の仕事の継続につながることになる。

プロジェクトの回収期間は、ソベトレヤ村の製材工場が 6 年、オルガ村の製材工場が 4.8 年、チュグエフカの中の単板積層材の生産設備が 4.7 年で、期待される収益性は 7.53%、プロジェクトが完了するまでの期間は 4 年と予想されている。現在利用可能な製材能力は、広葉樹木材(カシ、タモ) が年間 2 万 7,000 m³、針葉樹木材が 11 万 5,000 m³ であるが、ダリネレチェンスク、オルガおよびソベトレヤ村に新しい製材能力が導入されれば、丸太換算で 14 万 7,000 m³ 分が増加するであろう。沿海地方の木材産業複合体の焦点が未加工の素材の輸出に当てられていることは、収穫する森林を効率的に使用しているとは言えず、また、伐採された材木のバイオマス利用の 50% にもなる前後の加工段階で生じた木屑を効果的に使用することをできなくしている。伐採地からは、主として、

高品質の大きな丸太が運び出され、小径木、規格外の原料および他の木屑は、伐採地に残されている。環境的な視点という立場からすでに好ましくない状況にあるものをさらに、悪化させている。森林資源の保護の重要な側面は、様々な木材や木屑の処理、利用の組み合わせである。伐木集材にこうしたアプローチをすることによって、ロシアの将来世代のための国富として、収穫する量を減らし、森林を保護する低浪費(ないし浪費ゼロ)の技術が提供される。

(海外レポートに基づき抜粋・編集)

JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC